



大学の貢献

外交・国連機関関係者を招いて特別講演会を開催

2022年11月、経済学部及び国際交流課共催により、外交・国連機関関係者を招いて講演会を行い、海外での貴重な経験に基づく知見を共有するとともに、現在起こっている世界の課題、日本の課題について考察する機会を得ました。

・「スウェーデン社会とSDGs」(英文: Swedish Approach to SDGs) 講師: 廣木重之駐スウェーデン大使



2022年11月9日及び10日に、廣木重之駐スウェーデン王国特命全権大使を招いて、特別講演会「スウェーデン社会とSDGs」(10日英語での講演時の題名: Swedish Approach to SDGs)を開催しました。

廣木大使は、駐スウェーデン、駐南アフリカ、駐アフガニスタン大使、及び儀典長などの経験談を踏まえて、コミュニケーションの手段を備え、異文化を体験することで広く世界を知ることができること、自分の強みも弱みも生かして、多様性を尊重し、自分らしく生きることが必要であること、国際社会を生きるために、「まず知ること、そして自分について知ること」の大切さを強調しました。

続いて、SDGs(持続的開発目標)の達成ランキング(2020年)において、スウェーデンが世界第1位であること(日本は17位)を説明した上で、SDG5(ジェンダー平等)に関連し、同国の女性の活躍の姿、ライフ・ステージに応じた社会福祉の状況、福祉国家への歩みを解説しました。

また、同国の環境政策(SDG12,13,14,15)については、「自然にかえせる量の資源しか取らない。地下より地上のエネルギーを選ぶ。生物の多様性を尊重する」を重視していること、さらに、SDG16(平和と公正をすべての人に)については、同国が1814年から2022年まで「中立国」であったことなどを解説した上で、現在のウクライナの状況を踏まえ、参加した学生を数名壇上に招き、ロシア、ウクライナ、アメリカ、国連の首脳の言い分を主張し合うロール・プレイを行いました。

・「ウクライナ戦争から考える国際連合と平和構築」講師: 兼原信克同志社大学特別客員教授

2022年11月30日に、同志社大学の兼原信克特別客員教授を招いて、特別講演会「ウクライナ戦争から考える国際連合と平和構築」を開催しました。

兼原教授は山口県出身で、外務省入省後、国連日本政府代表部、在米日本大使館公使、総合政策局参事官(国連担当大使)、在韓国日本大使館公使、国際法局長、内閣官房副長官補兼国家安全保障局次長などを歴任しました。

講演では、2022年2月に、ロシアがウクライナに侵攻した経緯について、両国の歴史的な背景を踏まえて解説した上で、ロシアが日本、韓国、豪州を含む西側先進国の、自由と平等、人権尊重、議会主義などの価値観を十分に理解できず、ひとたび一人の人間に巨大な権力が集中すると誰も批判ができなくなり、権力者が道を間違える危険性があると指摘しました。そのロシアが国連安保理事会の常任理事国のメンバーであることから、国連は機能不全に陥っていることが極めて残念であるとも述べられました。その上で我々は何をなすべきかという点については、「人間の良心に従い、協力しあい、自由で民主主義的な制度の上で互いに話しあうことが重要である」と強調しました。

講演後、学生からの「ロシアがウクライナの独立を認めず自国の一部のように振る舞っている点から見て、国境や領土という概念がそれほど重要か」という質問に対して、住んでいる人々の自由な意志を尊重することが最も重要であると述べられました。また、「幾つかの国で独裁的な指導者が排除されないのは何故か」という質問に対しては、前近代的な社会は国王などの権力者層とそれ以外の従属層という単純な社会構造であり、強権的な国王などが排除されることが比較的容易であったが、現在の社会は組織構造が複雑であり、独裁者を取り巻く権力構造は容易に排除されないこと、また、それらの国々では自分たちの生活が安定し、個々人の生活に国家が過度に介入してこない限り、従順な態度を保持する傾向があると述べられました。

講演に参加した学生にとって、国連や外交の場で長年活躍された郷土出身の外交官の講演を直接聞くことは大変貴重な機会となりました。

ロシアによるウクライナ戦争 一言語の関係を考えるー 第40回山口大学人文学部異文化交流研究施設講演会

2023年2月11日、山口大学人文学部において、ウクライナ西部・リヴィウ出身、茨城キリスト教大学文学部講師ジャブコ・ユリヤ氏を招いて講演会を開催しました。

2014年、ロシアは「ウクライナにおけるロシア語系住民の保護」を理由として、はじめにクリミア半島、その後ウクライナ東部のドンバス地方に軍事侵攻しました。それから8年間続いていたロシアによるハイブリッド戦争は全面的な規模になってしまいました。2022年2月24日、プーチン大統領は、北大西洋条約機構(NATO)の東方拡大は安全保障上の脅威であるとし、NATO拡大防止を理由にウクライナに全面的な侵攻を開始しました。本講演会では、ウクライナでロシア語が広く使用されている背景、そして、ウクライナ人の言語使用や国民的アイデンティティとロシア・ウクライナ戦争との関係を考察しました。